

令和4年度第4回出雲市地域公共交通活性化協議会議事録

と き 2022年11月15日(火)
ところ 出雲市役所 大会議室
出席者 17名(うち、代理出席1名)

1. 開会

2. あいさつ

【会 長】

皆さま、おはようございます。

大変お忙しい中、お集まりをいただきまして、ありがとうございます。

今月は、神在月ということもあり、コロナ禍前に近づく勢いで観光客が増えてきているのではないかと考えています。交通事業者の皆さまも、一安心というところではないかと思えます。一方で、コロナの第八波に入ったのではというぐらい感染者が増えてきており懸念されるところです。

感染予防対策と経済の活性が、きちんと両立できるように一生懸命頑張っていきたいと思っています。

この協議会でございますが、今年度4回目を迎えることになりました。

あと残すところ2回というところでございます。

ここに至るまで、皆様方から貴重なご意見をいただき成案に近づいてきたと思っております。

本日説明をさせていただきますが、これまでのご意見はこれに反映させております。

今後、パブリックコメントを経て、いよいよ成案という形になるかと思っております。本日も、皆様方から忌憚のないご意見をお願いいたします。

本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

【事務局】

それでは早速会議の方に入りますが、まず本日の委員の方の出欠の状況でございます。お配りいたしました名簿の方で確認をお願いしたいと思います。

それでは議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきたいと思えます。

～資料の確認～

それでは、議長は会長が務めることになっておりますので、この後は会長の方でお願いしたいと思います。

よろしく申し上げます。

3. 協議事項

【会 長】

それでは次第に従いまして議事を進行して参ります。

皆様方のご協力よろしく申し上げます。

出雲市地域公共交通計画案について、事務局から説明をお願いします。なお、前回皆様から多くのご意見をいただいております。この計画案に反映をさせておりますので、事務局は修正箇所を中心に説明をお願いします。

- 【事務局】 ～出雲市地域公共交通計画（素案）について説明～
- 【会長】 事務局から修正点について説明をいたしました。
皆さまからご意見、ご質問をお受けしたいと思えます。どなたからでもかまいません。よろしくお願ひいたします。
修正箇所以外のところでもかまいません。
それでは、時間もたくさんありますのでお一人づつお気づきの点があればと思えます。
- 【委員】 48ページの、施策の実施スケジュールですが、優先順位はどのようにつけられたのか、お伺ひできればと思えます。
- 【事務局】 優先順位の付け方ということですが、まず施策3の中山間地域でバス停まで行くのが困難で利用しにくいというお話がありましたので、こちらの方を最初に実施したいと考えております。
そのあとで、これも利便性向上ということになりますが、中心市街地ですとか、通勤通学をされる方の利便性向上のために、中心市街地形成エリアの利便性向上と、通勤通学のしやすい環境づくり、こちらの方に取り組んでいきたいと思っております。
これが終わりましたら、それと同時に、時刻表やバスマップを作成します。
そういった利便性の向上を図った後に、運賃体系の再構築に取り組んでいきたいと考えております。
- 【委員】 特にございません。
- 【委員】 計画がある程度まとまってきたところでなんです、住民の皆さんの意識を変えてもらうことも重要だと思っております。計画を実行されるにあたって、これから実証実験等実施し、効果と検証をしながらやっていただきたいと思えます。地域としても高齢化が進んでおり、危機感を持ってもらうことも必要と思っております。
幹線のバスのところで、佐田地域の終点が一畑バスの出雲須佐駅となっていますが、地元の意見集約をした際に、観光客の利便性を図るためにも、一畑バスを須佐神社まで延長するなり、地域内のバスなりで、観光対策ができるのか、検討していただきたいと思えます。
- 【事務局】 住民の意識改革も必要だという貴重なご意見ありがとうございます。
須佐神社なり、周辺の観光地へのアクセスにつきましては、どういう形が一番いいのかというところ、検討の余地があるかと思えますので、地元なり自治協会と十分な協議をしながら進めていきたいと思っております。いずれにしても、個別の計画をそれぞれ立てる中で、議論をして参りたいと思っております。
- 【委員】 34ページの下のところ、見直し対象路線として、住民への周知、意見交換を行いながらということが書いてありますが、住民、利用者への周知の仕方について、何かお考えがあれば、伺ひたい。
- 【事務局】 具体的な周知の仕方は、今後考えていきたいと思えますが、現状ですと地域の運行協議会の方に諮って協議をしていくようになっておりますので、それはもちろんのこと、その他の方法も今後検討していきたいと思っております。

す。

【委員】 この計画については、意見を取り入れて頂き、いいと思います。

ただ、前回は質問させてもらったが、江南にタクシーが配置されているということだが、私は見たことがないので、どこのタクシーなのか。この事業者が湖陵地区にいるように伝えてほしい。

また、20年後は恐ろしい人口減少社会となります。そうすると交通弱者という問題だけでなく、観光の面からも、公共交通機関を維持すること自体が、非常に厳しい社会が迫ってくると思っている。

そうしたことから、車に乗らない人のためではなく、車に乗る人もこの問題は、これから先大事なことだと思う。「普段から乗ろうや」、「たまには乗ろうや」と、そういうふうにやっていかないと、交通弱者ばかりの利便性を高めるといっても、限界があると思う。

どこで誰が取り組むのかわかりませんが、この計画は5年の計画なので、大きなことを言ってもマッチしないと思いますが、やはり10年、15年、20年先では、JRの木次線とか、本体の山陰本線がどうなるとは思いますが、民間企業であるから一畑も、どうなるかわかりません。やはり地域の人が、乗ってはじめて成り立つと思います。

だから、車を使わない人だけでなく、車を使う人も、「将来のためにたまに使おうや」ということをどこかでずっと呼びかけていかないと恐ろしい社会がやってくるのではないかと思います。交通ばかりではない。20年後はすごい人口減少で、乗らないかぎりはなくなります。

この計画はまとまってよくできていると思いますが、これから先、恐ろしい時代が来るなあと思って、こうした計画を5年、5年でやっていくと、誰も言う機会がない。20年後になって山陰本線が廃止になってはじめてどうするだあと、それでは遅い。廃止前の三江線にも乗りました。悲惨です。病院に行くのにバスを乗り継いでいかないといけない。石見には大きな病院がないですから、大変です。そうした時代が必ずやってきますから、一体どうなるのか心配しています。回答はいりません。以上です。

【委員】 今、委員が言われたことと重複するかもしれませんが、総合的に考えますと、やっぱり地元の人たちがどんどん公共交通を利用するというのが一番だと思います。もちろん観光客もそうですが、それ以上に地元もどんどん利用しなきゃいけないというふうに思っております。

今の、中学生、高校生は、ほとんど自転車で動いております。

それを、何とか公共交通を利用して、あちこち簡単に行けるように。

そして、高齢者の皆さんも、免許返納しても、ほとんど公共交通を利用することがないように感じられます。

おそらく、乗り方がわからない人とか不便さを感じている人がいるんじゃないかという気がいたしますので、そのところを考えていく必要があるかなと考えております。

【委員】 特に私の方から意見はございません。

前回の意見を反映していただきました。ありがとうございます。

【委員】 先般の会議でも申し上げましたが、この出雲地域においてはほとんどの高校生が自転車通学だと思います。

JR、一畑バスを利用してという方も中にはいらっしゃいますが、大半が自転車通学という事で、私ども、乗り方教室を自治会単位、或いは学校単位でも、やっていきたいと思えます。言い方が適切かわかりませんが、公共交通を利用するくせづけをさせていただければと思っております。

それから確認ですが、資料の中で、運賃体系は別でやるということですが、いつごろ計画をされているのかということと、あと、路線、便数、経路変更の関係で、施策1-1と1-2のところですが、この基準に抵触しない限り、見直しをしないということではないと思えますが、これから随時その路線の便数、経路は、私どもと出雲市さんとで協議させていただいて、必要に応じて変更していくということによろしいでしょうか。

あと、確認ですが、48ページで、施策5は、わかりやすい時刻表ですかね。ここは、実施があつて、計画があつて実施となっておりますが、これはどういう意味なのかということと。施策7、施策13というところが、何も色付けがされてないですが、ここは適宜やっていくということなのか、ちょっとそこら辺を教えていただければと思えます。

【事務局】 まず施策7の実施スケジュール48ページについてお答えいたします。

こちらの方の施策7と施策13については、この中に二つの事業に分かれておりますので、施策7については7-1と7-2のところでは計画しておりますし、施策13についても、その中の13-1と13-2について、計画を入れております。

それから施策5については、令和5年度からは、今の時刻表、バスマップ時刻表の多言語化に取り組みまして、7年度からは見直した路線、時刻表を作り直して、令和8年度から実施するという、二段階に分けた実施になっております。

料金の42ページの施策7-1は、いつから実施するのかということですが、これが先ほどの表で言うところの、施策7-1、外出を促進し持続可能な運賃体系の構築の、令和8年度から計画して、令和9年度に実施することになります。

34ページの幹線支線の見直し基準の設定ですが、こちらの見直し基準に該当すればもちろん、その事業者や地元の方とお話をしたりして見直しをしますが、それ以外の見直しをしないということではありません。何かもつといい形で、便数をふやしたり、ダイヤを見直したりということがあれば、協議はしていきますので、よろしく願いいたします。

【委員】 30ページの公共交通の対象者ですが、車両への乗車や降車ができる方とありますが、車椅子の方は路線バスは大体乗れるし、介護、福祉タクシーとかは乗れますが、今、私どももやっております福祉バスについては対象外という書き方ですけれども、施策7の方で介助や配慮が必要な利用者への支援という部分で、将来的には考えておられるのかお聞きしたいと思います。

それともう1点、48ページのスケジュールについてですが、施策2や6

や7については、地域住民の方を巻き込んで、一緒になって考えていただきたいと思います。

【事務局】 福祉バスの車椅子利用をどうするのかについては、今後協議の中で決めていきたいと思っています。

また、中心市街地形成エリアの利便性向上については地元の方の意見を取り入れながら進めていきたいと考えています。

【委員】 21ページです。

I COCAというICカード、昨年度から一畑バスもつけて頂いて、ICカードの利用が増えております。

出雲市から東への通勤通学の方は大半がI COCA定期となっております。

こういったICカードですが、JRが地域と一緒に今進めていることは、このICカードを、観光施設等に置いて、例えばJRをご利用いただいて、IC改札機をタッチし、観光施設の入場でタッチすると運賃が割引になるというような、そういう施策を検討しているところです。

それから隣のウエスターは、これもJR西日本のアプリです。JRは、現在、紙ベースの時刻表は発行しておりません。経費もかかりますが、やはり古い時刻表を見るお客様が結構いらっしゃいますので、紙ベースのものはやめております。

施策に時刻表という話がありましたが、交通機関それぞれがダイヤ改正する時期が全然違うと思います。それに合わせて、時刻表を発行していくとなると、かなりの頻度で、改定をしないといけないという煩雑な作業があります。

ダイヤ改正にあわせてではなく、この時期に作成、というようにされますと今度は古い時刻表をお客様が見ることになり、困られることになります。そういうこともありますので、弊社としては、こうしたアプリの中で時刻表を見るようにしております。

このウエスターというアプリでは経路検索、行きたいところが検索できるようになっておまして、一畑バスや一畑電車は反映されていますが、コミュニティバスは対応できてない状況ですので、そうしたところを視野に入れて対応ができるようにしていただけたらなと考えております。

そうしたことで、より利便性を高めるようになればと考えておりますので、こうした時代に即した形で検討いただきたいと思います。

【事務局】 ご意見をいただきありがとうございます。

時刻表の改正時期が違うということで、確かに、その通りだと思いました。

ただ市役所にお問い合わせいただく方については高齢者の方が非常に多く、ネットで検索が難しい方もいらっしゃって、そのあたりが課題だと考えているところです。

【委員】 こちらの公共交通計画案の骨子については、基本的に内容的には同意という形でご案内をさせていただこうと思います。一畑電車はご承知の通り駅間がそれほど広く離れている鉄道事業者ではございません。

その駅間の距離感も、今後の公共交通計画の中に上手に取り込んでいただくような施策も改めてお考えいただきたいと思っております。

また公共交通については、それぞれの形態で運行していると、どうしても重複する区間が生じていることが実態としてはございます。

これにつきましても、それぞれの交通の特性を生かすような形の路線設定をこの公共交通計画の中で深く揉んでいただきたいと思っております。

ある意味、この計画が今後の出雲市の交通体系全体のある意味、ブレイクスルーになるような計画になればと思っております。

また、先ほどお話がありましたように、今後5年以降、それを10年20年スパンという形の公共交通のあり方、先ほど委員からもございましたけれども、我々としてもここは懸念材料というふうに言わざるをえません。

5年前、視察にこられた滋賀県の近江鉄道さんですが、私どものみなし上下分離方式の導入にあたって視察に来ていただきました。

そこは、自治体さんの方がより積極的に動かされて、今、滋賀県として、交通税というものを設定しようという動きが出ております。いわゆる県民等しく公共交通維持のために税金を徴収するという考え方ではあります。要は、いわゆるマイカーを使われている方も、公共交通を使っている方の便益を受けているという考え方のもとで滋賀県の方は設定されるという流れで今動かれてるという話も聞いております。

弊社が仮に廃止になりますと、当然ながら利用者さんはマイカーですとか、バス転換ということになりますが、そうなれば当然交通渋滞が起きてしまい、車の利用者もその渋滞に入り込んでマイカー利用の利便性が損なわれる。

それを避けるためにも一畑電車を維持すべき、他の交通利用者の便益も兼ねてるという考え方のもとで、支援いただいているという背景がございます。

そういうものも含めた体系のあり方というのを、この計画以降、改めて考えていく時が来るのではないかと考えているところであります。

私ども、利用者をより増やしていくという方向性の中で、観光客のご利用により、収益を一定数字上げさせていただいてるという背景がありますが、弊社の利用者数の6割が定期券の利用者、つまりは、イコール地元の方ということです。

地元の方にご利用いただいた基礎数字があるからこそ、観光客、他の利用者さんの数字をその上に積み上げができるという環境であります。

私どもの比率としては、通学定期券の利用者が多いという背景がありますので、毎年、高校の入学の際に、学校で定期販売させていただいたりとか、小学生、幼稚園のお子様の電車教室を開いてみたり、いろいろ公共交通に親しんでいただくという形の活動を引き続き行い、公共交通利用を促すような活動を引き続き行わせていただきたいというふうに思っております。

【委員】 基本的にはこの出雲市の地域公共交通計画は大変素晴らしいものができたと思っております。また、非常にわかりやすく作られているというのが率

直な印象です。ただ、これは誰に向けて作ったものなのかということも非常に考えるところがございます。

これから申し上げますことは意見ですので、返答は要りません。

思いもありますので、語らせていただきたいと思いますが、私も出雲市に住んで50何年になりますが、非常に交通体系、不便だと思っています。それはいろんなところで各モードがバラバラで動いてるという印象しかございません。

昔は市内に様々な路線がございました。砂子田線であったり、外園線は今もありますけれども、本当に各コミュニティーの地域に網羅されていた時代があつて、それが人口の減少もあり、また車の活用も増えてきて、廃止等がなされて、非常にコンパクトな路線になり、公共交通が乗りにくくなってきているのが、現状事実だと思っています。

これをどうするかが非常に大事で、今後、この5か年計画の中で、路線の見直しの際には、住民の方々の意見を吸い上げていただいて、大きな事もしていかなければならないと思います。

既存の路線をどう利用していくかということになると思いますが既存の路線が本当に使いやすい路線なのか。大きく路線変更等も考えながらやっていかないと、交通弱者等と言われる方々のことも考えながらやっていかないと持続可能と言われるような言葉にはならないと思っております。大胆な見直し等も、必要とあれば考えていただきたいというのが一つ。

それと後は、観光客が多い島根県出雲市でございますが、やはり飛行機、鉄道で大量輸送してもらっても、そのあとの路線バスが使いづらければ、公共交通を使わなくなってしまいますので、各モードで競争ではなくて協働、これから先は協力し合いながら、交通体系を維持していくということが非常に重要になってくると思っておりますので、それをお願いしたいと思っております。

あと先ほど通学定期的の話も出ていましたけれども、今後、少子高齢化がますます進んでいって子どもの数も減っていくと思われまますけれども、やはり各県からのIターン、島根県にいろんな方に定住してもらおうという、こういう政策も、交通体系とは別に必要になってくると思います。

やはり人がこなければ、当然ながら維持できないということがあります。

それを裏返せば、便利な市だからこそ人が来るといふ、そこは公共交通の路線、様々なところへの移動が本当に簡単にできるというようなところを位置付けて、今後の計画に活かしていただきたい。

この会に出ていますが、誰に向けた会議なのかということところが少し疑問になってくるところがあつて、やはり地域の住民、或いは利用する側に立って、今後いろんな計画を立てるべきものではないかというのが率直な意見です。

これは当然ながら議会にも通さなければなりませんし、お金もかかるものですから、さまざまな大きなものを作らなければなりませんし、これから先、本当にいろんなことをやっていく上で、利用しやすいとは何ぞやということころにも立ち返らなければならぬというのが、私の率直な思いであります。

し、今後私も公共交通を担う労働者の集団としても、いろんなところで提言をしていきたいと思っておりますので、この計画がよりよいものになるように、望んで意見とさせていただきます。

【委員】 この計画について、どこがどうということはありますが、今後は、地域なり公共管理の部分の細かなご意見を聞きながら進めていくことが大切であって、全体的に、議論は難しいところがあると思っております。

議会としても特別委員会の方で、数年来、公共交通、どうあるべきかと検討しております。近年、特に人口減少の関係で中心部と中山間地域をどういう方向に向けていくのかというような中で、この交通関係は非常に大切な部分でございます。先ほどのご意見を聞きますとおり様々な心配が今後に向けてかなりあるという認識でございます。

今、経済活動の中で、バス、電車等々の公共交通機関を利用して生活をする方が市内で非常に少ない。やはりこれは利便性がかなり低いというようなことで、路線がある中心部においてもなかなか乗る人がいないと思っております。

そんな中で通勤通学の部分をきちんと確保しながら観光の部分に乗せていくというような意味で、一つ心配は予算あつてのもので、この辺を今後どうするかということで、今一畑電車さんもいろいろと努力の中で、例えば、駅周辺をもっと活性化しながら、交通体系だけではなく協力が必要だと思っておりますが、まずは乗っていただくことだと思っております。

乗っていただければそれだけ収支が改善し、そこの部分を中山間地域にまわしながら、全体で、皆で支えるような意識が一番、今後必要になってくるのではないかというふうに思っているところでございます。

交通機関プラスそれぞれの福祉の関係や住宅関係、いろいろと一緒に協力しないと、今後厳しいところがありますので、議会の方もそういった視点で、地域の皆様方のご意見を聞きながら今後も進めていきたいと思っております。

計画の方は、まずは、これがスタートと申しますか、出発地点のような形で、これから具体的なところをこういうふうにとまめてはいただいておりますが、今後に向けてのスタートとして、始められたらというふうに思いますので、よろしくお願い致します。

【委員】 こちらからは、意見として特段ありませんが、感想というような形で話をさせていただきます。施策3の高齢者が利用しやすい新たな地域内交通の導入ですが、今後乗合タクシーを検討されると聞いております。乗合タクシーというのは、全国的にも広がりつつありますが、利用者の方が高齢者ということもあるので、基本的に申し込みは電話になると思いますが、今後、促進していくには、やはりスマートフォンなどのアプリ内で予約ができるような形を検討されると思います。その時に、利用者の方が利用しやすい形で、きちんとご説明されるということも重要になってくると思いますので、その利用者を増やすところに関して、どういった形で説明されるのかも含めて検討されるといいと思いました。

観光のところで、思ったところがありまして、意見を述べさせていただきます。

バスマップを作られるというところで、外国人の方が、どういった方法でこのバスマップが掲載されているサイトにたどり着くのかというところで、あんまりこうイメージがつかなかったのも、外国人目線で、利用しやすい周知の方法というのも含めて、観光部門の方々と協同しながら、検討されてもいいのかなと思いました。

【委員】 計画の方ですけど、13の施策を示され、評価指標も9つも設定されているということで、きちんと整備された計画だと感じております。

今後施策の実施にあたりましては、経費もかかると思います。路線の見直しをされる場合、実証運行など必要だと思いますので、そういった面では県の方も財政的な支援をしたいと思いますので、スケジュールに沿って着実に施策を実施していただきたいと思います。

あと、私も、公共交通は住民の方が利用されることが前提で成り立っていると思っております。

県と市は全県にまたがるJRの利用促進をまず進めていくということで、旗振りをしておりますが、考えておりますのは、まず、ビジネスで、現在、車で利用されているものをなるべくJRに変えていただくと。そういった取り組みを、全県で進めていくこととしております。

今後出雲市さんと協力しながら公共交通の利用促進に取り組んでいきたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

【副会長】 地域の公共交通は、費用対効果では測れないものが多いと思います。

前回の資料で言いますと、市の持ち出しが2億3,000万円ぐらい毎年計上されています。そして計画を作る段階ではじめにありましたように、合併前の市町でそれぞれ行われていた交通体系が、いい点もあれば、もう少し改良しないといけない点もある。そういう意味では、こうした契機で見直しするという事は非常に的を射た大事なことではないかなと思います。

こうして計画の素案ができつつありますが、各市町が今まで行ってこられた中に、先ほど言いましたように様々ないいシステムと、或いは見直さなくてはならない部分もかなりあるのではないかなと思いますけれども、例えば施策1から見ますと、基本的に既存のものを、見直しというのがベースになっています。もちろん大幅な変更というのは大変な事ですから、おそらく計画を策定されて、今後もあるタクトで見直し、いい方向に変えていくというようところが、必要ではないかと思えます。

例えば斐川地域が導入しているデマンド的なタクシー制度ですけれども、非常にいい制度ですが、こうした制度を出雲市全体、特に中山間地域には思い切って導入されたら、費用対効果の面でいい点もあるのではないかと思えます。反面、いい点もあれば進めて参りまして、リカバーが十分ではない制度でもございます。

こうした縦軸と横軸というものを、出雲市全体でどう構築していったら、高齢者、観光、一般の方、それから、マイカーの普及が大きい要素もあると思

いますが、市内にも大きな企業もたくさんございまして、通勤対策と合わせた、対応が必要では。例えば、村田製作所は1事業所で8,000人だと言われております。もちろん3交代ではありますが交通渋滞が頻繁に起きておりますし、それから、送迎バスが10数台、列を連なっております。

そうしたところを、企業側と話を詰めていく、効率的な人の移動をこれからは大きく検討していく必要があると思います。

一遍にはなかなかできないと思いますので、こうした既存のものを見直ししながら、取り組んでいくべきだと思います。

私は斐川交通運協から出ておりますから気になるところですが、地域と地域をつなぐネットワークの強化だったり見直し基準の設定だったり等々を含めて、斐川地域はこういったものから、まめながタクシー制度しかないということもあって、空白の中で、将来的に斐川地域は人口規模もかなりあり、JRも2つの駅がありますし、飛行場への空港連絡バスも走っている。こういったものの一体化の中で公共交通として位置づけることが何かないかなと思っております。

いずれにしても市全体で公共交通を一元化、効率化を図るということでございますので一朝一夕に私は難しいと思います。なので、こうした計画を、土台を作り、これから年数をかけてよりよい交通体系を構築していく。こうした息の長い取り組みが、必要ではないかと思えます。

【会 長】 ありがとうございます皆様、それぞれに本当に貴重なご意見をちょうだいいたしました。

反映できるもの、今後検討していかなければいけないもの、様々あって、特に複数の委員の皆様から、やはり利用者を増やしていかなければいけないというご意見は本当にその通りだと思っております。

言い方は悪いですが、利用者が増えなければ悪循環に陥って、これはもう目に見えた話でございますので、利用者を増やしていくこともしっかり取り組んでいかなければいけないと思っております。今、地域の皆さんで、利用者を増やしていこうという取り組みをしておられる地区もあります。

また、企業で、公共交通機関を使いましょうという取り組みをやっておられるのではないかと思っております。

市役所は職員のノーマイカーデーを事務局の交通政策課から、今呼びかけをしております。

市役所の職員も、公共交通機関を使いましょうという取り組みをどんどんしております。

それからももちろん事業者の皆さん自身も、利用者増のために苦勞しておられるのではないかなと察するところでございます。

いろいろな関係者が利用者増に向かって取り組んでいかなければいけないと思っておりますし、市としてもしっかり支援をしなければならぬと思っております。貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございます。

まだ意見あろうかと思えますけども、後程まとめてご意見を頂戴する時間

を設けたいとおもいます。

それでは先に進めさせていただきまして、その他のところで、今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

4. その他

【事務局】 ～今後のスケジュールについて説明～

【会長】 事務局から今後のスケジュールについて説明をさせていただきました。
このスケジュールについて、それから全体、ここまでのところで、何かありましたら、よろしく願いいたします。

【委員】 冒頭に会長さんが言われましたように出雲はかなり観光客が増えております。これは政府のコロナ規制とか、緩和、或いは神在月の影響ではないかと思えます。

それに加えまして、稲佐の浜にあります弁天さんに参拝される方、そして、またもう一つは稲佐の浜がかなりすばらしい夕日スポットになっています。そういうこともありまして、かなり海岸線がにぎわっております。

特に、神迎祭から1週間の間は海岸通り或いは神門通りから稲佐に向かうところはほとんど車が進まないような状態で渋滞をしておりました。

参拝客が多いのは大変喜ばしいことですがドライバーや近隣の皆さんにとりましては本当に迷惑なことでもございます。

27ページの⑨に書いてございますが、マイカーがなくても公共交通を利用して快適に観光ができる環境を作るとあります。まさにこの通りだと思えます。

先ほど述べたようなことを、今はSNSとか便利な、伝達方法ございますので、こういうことを、全国的に発信をしていただきまして、全国の方々もこのことを理解していただいて来雲していただくように強く要望いたします。

【会長】 他にいかがでございましょうか。

特にないようでしたら、ここまでが、本日用意した議案等でございます。皆様方のご協力によりまして、進めて参りました。ありがとうございました。

それでは事務局にお返しいたします。

【事務局】 先ほど、渋滞対策についてのご提案をいただきました。

観光客が増えるのはいいがまた渋滞を招くという、裏腹の部分があるかと思えますし、地元の方もいろんなご負担があると思えます。

市の方でできること、いろんな発信もあろうと思えますので、担当部局いろいろまたがりますが、市の中で調整をして参りたいと思っております。

重ねてになりますが、皆さんからたくさんのご意見をいただきました。

共通しているのは、人口減少が加速する将来にあたって、どうするかが一番の懸念材料でありますし、共通の認識であらうと思っております。

交通は、まちづくりの一端であらうかと思っております。

都会のように、インフラ整備が整っていて、どこでも何でも乗れるような

状況であればいいんですが、残念ながら今そういった状況にないということなので、その中で公共交通にいかに車からシフトをしていただくかということ。

交通税の話もございましたけれども、いろんな方法で利用促進を含めて事務局としても、この計画の中に具体案を詰めていきたいと思っておりますので、今後ともご協力いただきますようによろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局の方からは2点ほど連絡をさせていただきます。

次回の協議会につきましては1月の中旬を予定しております。日程が決まり次第、ご案内をさせていただきますと思ひますので、ご出席の方お願ひをします。

それと、謝金については後日、振込ということでお願ひをさせていただきますと思ひます。

それでは、最後になりますが、副会長から挨拶の方お願ひしたいと思ひます。

【副会長】 大変長い時間にわたりまして、協議ありがとうございました。

出雲市地域公共交通計画の協議、17名の委員で今年度4回目となりまして、本日示されましたように計画の骨子がまとまりつつあります。

最初は、何から議論されて、どんなことになるだろうかと思ひておりましたが、こうして道筋がつき、形ができ、17万都市の出雲市の交通計画がよいものができればと思ひております。

出雲市におかれても、新総合振興計画が策定され、交通体系ともどもに出雲市の発展に繋がりますような、立派な計画ができますことを祈念いたします。

お疲れさまでした。

【事務局】 それでは以上をもちまして、会議を全部終了させていただきます。

どうもありがとうございました。